

北海道文化奨励賞

こ ばやし よし つぐ
小 林 快 次

米国の科学専門誌で「世界をリードする33人の古生物学者」の一人に選ばれた、国内恐竜研究の第一人者。

恐竜から鳥類への進化の謎を追究し、その鋭い観察力と洞察力から、研究者の間では「ファルコンズ・アイ」（はやぶさの目を持つ男）と呼ばれている。

「謎の恐竜」と言われた「デイノケイルス」の全貌解明に貢献するとともに、国内最大の恐竜全身骨格化石である、通称「むかわ竜」の発掘・研究で活躍。

講演や子ども向けイベントなどに精力的に参加し、恐竜を通じた古生物学の普及・啓発にも尽力している。

◎受賞者の主な略歴

H7 アメリカ ワイオミング大学卒業

H8 アメリカ サザンメソジスト大学大学院入学

H16 恐竜研究で日本人初の博士号取得

H16 「Dinosaurs: The Most Complete, Up-to-Date Encyclopedia for Dinosaur Lovers of All Ages」（米国ランダムハウス社出版）において、「世界をリードする33人の古生物学者」の1人に選抜

H17 北海道大学総合博物館助手（～H21）

H18 デイノケイルスの発掘調査に参加（～H22）

H18 と H21 に新たな骨格化石を発見し、全貌解明に貢献

H21 北海道大学総合博物館准教授（～現在）

H23 むかわ町立穂別博物館と北海道大学による「むかわ竜」の共同研究・共同発掘調査の中心的な人物として参加（～現在）

H29 にハドロサウルス科の全身骨格化石で国内最大の恐竜全身骨格化石であることを確認。

H24 大阪大学総合博物館招聘准教授（～現在）

H27 アメリカナショナルグラフィック財団助成金審査員